

## 福岡県の主な農産物の生産状況

令和3年8月2日現在  
(専技情報より抜粋)

### ◇早期水稻（夢つくし、コシカ）◇

4月中下旬植「コシヒカリ」「夢つくし」の収穫期は、平年よりやや早く8月12～22日頃の見込みです。

降雨が少ないため、一部地域においては、今後の用水不足が懸念されます。

トビイロウンカの発生が一部地域で多いです。

穂数は平年より少ないが、出穂後の高温多照により、作柄は平年並みと予想されます。

収量、品質向上のため早期落水はしません。

ウンカ類、カメムシ類の発生状況を確認し、対策を徹底しましょう。

気温が高いので、刈り遅れにならないよう適期に収穫を行いましょう。

### ◇普通期水稻（夢つくし、元気つくし、ヒビカリなど）◇

移植後の高温により、草丈は高く、茎数は平年並みです。

生育は、平年に比べ5～7日程度早いです。

一部地域においては、用水不足により茎数が少ない圃場が見られます。

6月上中旬植「夢つくし」の出穂期は、平年よりやや早い8月5～10日頃の見込みです。

病害虫では、スクミリンゴガイの被害が多く、葉いもちの発生は少ないです。

トビイロウンカの飛来時期は平年に比べて早いです。対策の徹底により発生量は平年並みです。

用水不足の地域は、計画配水を実施し、節水に努めましょう。

有効茎数が確保され次第中干しを実施しましょう。

中干し後は間断かん水とし、特に、出穂・開花期の水は切らさないようにしましょう。

高温のためトビイロウンカの発生状況を確認し、対策を徹底しましょう。

カメムシ類対策として、出穂前10日までに畦畔草刈りを行いましょう。

### ◇大豆◇

7月20日までの播種進捗割合は68%(前年同期29%)と平年に比べて進んでおり、7月末までに終了の見込みです。

6月播種は、中耕・培土の時期となっています。

播種後の降雨が少ないため、7月下旬播きは発芽不良も懸念されます。乾燥のため、雑草の発生は全体的に少ないですが、今後、帰化アサガオ類などの発生に注意しましょう。

病害虫は、高温乾燥のため、ハスモンヨトウの発生に注意しましょう。

本葉3葉期から6葉期までに中耕・培土を行いましょ。

少雨のため、本暗きよの栓を閉めて、播種後の乾燥防止に努めましょ。

用水が確保できる地域においては、畝間かん水の実施を検討ましょ。

雑草の種類に応じ、中期の対策を徹底ましょ。

ハスモンヨトウの対策を徹底ましょ。

#### ◇青ねぎ◇

7月中旬までの生育は良好で、出荷も順調です。

本年産は、ここ数年連続した豪雨による冠水被害もなく、今後の出荷量は維持できる見込みです。

病害虫の発生は全体的に少ないです。

葉先枯れ対策として、土壤の過乾燥防止のため適宜かん水を行いましょ。

高温と強日射は葉先枯れの発生を助長するため、遮光資材を活用し、高温対策を行いましょ。

ネギコガ、ネギハモグリバエ等の害虫対策を実施ましょ。

#### ◇カキ◇

生理落果は、開花期の低温および直後の天候不良により前年より早く始まった品種もありましたが、概ね平年並で、着果量は平年並～やや多いです。

果実肥大は、生育が前進化傾向であることから現時点では平年より大きいです。

「秋王」は、梅雨期の日照が比較的多かったことから前年より着果がやや多いですが、樹勢が強い樹を中心に着果が少ない樹が見られます。

カメムシは越冬量が少なく、現時点で被害は見られません。

生理落果終了を待って摘果を行い、果実肥大促進を図りましょ。

生理落果が多かった園では病害の防除を徹底ましょ。

カメムシは指導機関からの情報をもとに必要に応じて防除を行いましょ。

#### ◇モモ◇

晩生種の出荷中です。

収穫が昨年より7日程度前進したことに加え、収穫期が少雨傾向で推移したことにより、果実品質が良好で出荷ロスが少なく、出荷量は昨年を上回ります。

高温乾燥傾向に推移しているため、収穫後は、自園地の土壤の乾燥具合に応じて、

かん水を実施しましょう。

また、樹勢が弱っている樹では礼肥を施用しましょう。

あわせて、せん孔細菌病やハモグリガ等の病虫害防除を行いましょう。

#### ◇施設ギク◇

「精の一世」「フローラル優香」等の夏秋ギク品種が出荷中です。

8月のお盆向けの出荷作型は、日照条件に恵まれ生育は前進傾向であり、早い圃場では7月末から出荷が開始されています。

一方、その後の出荷作型では、高温遭遇により開花が遅延するなど、梅雨明け時の花芽発達ステージによって反応が異なります。

全体的にハダニの発生が多い傾向です。

11～12月に出荷する秋ギクの採穂・育苗が始まっており、8月中旬以降、随時定植予定です。

高温時の定植や直挿し栽培では、予定日の3日前までには、寒冷紗等を被覆し、施設内の地温を低下させましょう。

活着までの1～2週間程度は、十分なかん水を行いましょう。

定植用の穂は採穂前の殺菌を徹底し、苗立枯症対策を徹底しまししょう。

#### ◇露地ギク◇

県内の露地ギク主産地は、福岡、飯塚、京築地域であり、6月から11月まで出荷されます。

8月のお盆向けの出荷作型は、梅雨時期の少雨の影響で中上位葉の小型化や葉焼けの発生が見られます。

収穫も乾燥によりやや遅延しており収穫ピークは8月初旬となる見込みです。

ハダニ類やスリップス類の発生が散見されます。

高温・乾燥による葉やけが発生しないよう適切な水分管理を行いましょう。

ハダニ類、アザミウマ類の対策およびウイルスの罹病株の抜取りを徹底しまししょう。

#### ◇豚・鶏◇

7月の豚枝肉価格は、全国的に出荷頭数が減少する時期で前月比106%と上昇しましたが、コロナ禍で輸入量が少なく高値だった前年同月比では96%、過去5年平均比では102%となりました。

鶏卵価格は、在庫不足で、供給過多だった前年と比べると157%、過去5年平均比でも140%と高値を維持しています。

厳しい暑さが続くため、送風などの暑熱対策を徹底し、ビタミンやミネラルを強

化しましょう。

サイレージ等の細断給与や嗜好性を良い糖蜜等の活用など採食量低下への軽減対策を実施しましょう。